



デメキュラ市訪問記

7月24日～8月4日までの日程で、大山町姉妹都市アメリカのデメキュラ市を中学生7人が訪問しました。交流事業の感想文の一部を紹介します。

名和中 2年

船木 大知

ストファミリーに会いにアメリカへ
行きたいです。

中山中 3年

奥野 結衣

デメキュラ市での研修で最も印象に残っているのは、ホストファミリーの優しさです。研修中に僕が頭痛で寝込んでいるときに、部屋に食べやすいものを持ってきてくださったたり、「どこか行きたいところはある?」と聞いてくださり、僕が希望したところに連れて行ってくださったりとたくさんさんの事をしてくださいました。来客者がどこの国の出身の人でも、しっかりと対応するという精神は、「人種のるつぼ」であるアメリカから日本もしっかりと学ばないといけない部分だと思いました。2020東京オリンピックを契機に日本の「おもてなし」の心がクローズアップされていますが、「おもてなし」の心は万国共通なんだなあと思いました。

デメキュラ市での研修は確実に自分の将来に役立つと思うのでしっかりと記憶に残し、大人になったらホ

私が小学生の頃、沖縄との交流事業に参加した時に、当時デメキュラ市との交流事業に参加した中学生が教育委員会でする挨拶を聞く機会がありました。私はその時に初めて、このデメキュラ市との交流事業について知りました。その時からこの交流事業に参加してみたいと思ったことや、堂々と教育委員会で挨拶をする先輩方がとてもかっこ良かったので自分もそんな人になりたいと思いました。

実際に参加できると決まってから、私はデメキュラに早く行きたいと毎日うずうずしていました。スピーチやプレゼンの練習を友達、家族に手伝ってもらいながら磨き上げたり、アメリカのことについて事前に調べ

たりしました。

アメリカに着いてからは、見たことのないもの、知らないものなどがたくさんありました。その中で特にチャンピオンフィールドでキックボールをしたことが印象に残りました。キックボールでは、他のバディー学生とたくさん交流できました。一緒にお菓子を食べながらお互いのことをほめ合ったりして、自分でも驚くくらいスムーズに会話することができました。アメリカの人々はジェスチャーを使って私の知らないことをたくさん教えてくださいました。



中山中 3年

野口 結衣

私を感じた中で、日本にもあると良いなと思ったことは、寄付やボランティアのシステムです。アメリカには市民の寄付やボランティアでできている施設がたくさんありました。その中の一つがジェイコブスハウスです。ジェイコブスハウスは、家族が病気やけがで入院している人のために無償で宿泊できる施設です。病院が遠くにあり毎日通えない、旅行

中のけがでホテルに毎日泊まるお金がないなど様々な方が利用されています。実際に私たちが見学をさせていただいた日も3組の方が利用されていました。思っていたよりも利用者が多く驚きました。また、ジェイコブスハウスは家の中の家具も全て寄付によるものでした。他にも、子供が遊ぶスペースがあり、そこに置いてあった絵本も寄付で集まったものであることを知りました。ジェイコブスハウスには、キッチンもあつて、温かい雰囲気です。本当の家のようでした。利用者へのいろいろな配慮があり、建物内も常にきれいに整備されている状態でした。日本には、こういう場所が少ないですが、自分も誰かのために寄付やボランティアを積極的にできる大人になりたいなと思いました。

大山中 2年

堯山 真希

私はもともと友達とコミュニケーションを取ることに苦手なので、それを英語ですることはとてもハードルが高いことでした。でも、ホストファミリーのお母さんがいろいろな質問を考えてくれたので、なんとか会話することができました。しかし、相手が何を言っているか分から